

～待降節を経て、イエスの誕生の記念へ～

### 街頭で街灯になる

12月2日から教会は待降節に入り、イエスの誕生を祝う日に向かって、私たちの信仰の旅が始まります。毎年の繰り返しですので新鮮味が欠けていると思われるかもしれませんが、しかし新しく味わうように心がけようとするれば、きっと2012年の締めくくりと、2013年の門出の典礼に十分な美味しさを再発見することができるでしょう。言うまでもありませんが、個人的にも共同体としても、努力せずにはその体験を期待することはできません。



—今年も、私たち一人ひとりと、共同体に勧められている具体的な「努力」が提案されています。

- 4日(火)と5日(水)は、共に回心し、赦しの秘跡を受けること—
- 待降節の主日の感謝の祭儀に積極的に参加すること—
- 9日(日)の街頭募金—

- そしてそれぞれの聖堂の大掃除と飾りつけに協力することなどです。



\* その中の「街頭募金」に少しスポットを当ててみたいと思います。—北九州地区信徒協主催の街頭募金はいつから行われているかははっきりと覚えていませんが、初めてその話を聞いた時に(40年前のこと)私は驚いたことをよく覚えています。「街頭に立つ」ということは全く経験のないことで、考えたこともないことでした。「神父様も是非立ってください」と言われた時、一瞬ためらいました。正直に言えば、1回目は「自発的に」立ったのではありません。「立たなければ臆病な者のように見られるのではないか」と…。

外国人であるだけに目立ち、通りかかる  
 人々の注目を浴び、始めは照れて多少恥  
 ずかしく、弱々しい微笑みを浮かべ、涸れ  
 たかのような声で人々に呼びかけ、とにか  
 く時間の経つのを長く感じました…。この  
 ような経験をしたのは私だけでしょうか。



～街頭募金に立つか立たないか～

いくら協力しようと思っても、様々な  
 理由で事実上立つことのできない方々が  
 おられますがしかし、できるのにそれを避  
 けようとする方々もおられます。一立たな  
 いための理由は、いくらでも並べることが  
 できます。最もらしい言い訳を探そうと  
 思えば不思議なことに、見つけるには苦勞  
 しません。自分が逃げていると正直に認  
 めることは私たち人間にとってそれほど  
 簡単なことではないため、「何でこんなこ  
 とをしなければいけないですか」と聞き直  
 った方が楽です。

～何でこんなこと？～

●街頭募金に立つことによって、地域社会  
 の一般の人々の目の前で、教会の存在を知  
 らせることができます。更に教会は秘密  
 集団でも、通じる仲間のクラブでもなく、  
 社会と共に、特に助けを必要とする人々と

共に歩んでいる共同体であることを表  
 すことができます。慎ましい「しるし」で  
 すが、その行動は福音を宣べ、証ししてい  
 る「しるし」であることは間違いありませ  
 ん。大したことではないかもしれませんが、  
 何もしないよりもはるかにましです。その  
 他に「しるし」となることはどのくらいあ  
 るのでしょうか。—そして多少勇気を求め  
 ているその行動によって、自分は自分のこ  
 とだけではなく、知らない人々、困ってい  
 る人々のために本当にわずかでも尽くす  
 ことができるかどうかを確認する一つの  
 機会になります。それによって感謝の祭儀  
 の共同祈願の時に度々口で唱えているこ  
 とは、誠意のある祈りかどうかを確かめる  
 ことができます。

●それに、集まったお金は事実多くの人々  
 に役立つ、その形で募金しなければ、それ  
 だけの金額は集まりません。去年の北九州  
 地区13小教区の街頭募金の総額は  
 1,551,819円にものぼりました。



—「街頭で街灯になること」—

イルミネーションで飾られた街ほど派手  
 ではありませんがベツレヘムの子、神の子  
 救い主イエスの誕生祝いを迎えるには、  
 相応しい行動ではないでしょうか。